

伊藤武夫先生の研究業績の紹介

松葉 正文*

先輩である伊藤先生の最終講義を前に、先生の研究活動のあらましについてご紹介したいと思います。最終講義のタイトル「現代世界とモダニティ——現代史を学ぶ——」は先生の研究活動の全体を集約するにふさわしいタイトルだと思います。伊藤先生は経済学と歴史学の接するところで研鑽をつまれてきました。経済史から出発された方は、経済学者か、歴史学者かと、アイデンティティに悩むところがあると思いますが、そこから研究内容の深化に至る面も持ち合わせていると思います。先生の参加された学会は社会経済史学会、政治経済学・経済史学会、これらは経済史の重要な学会です。加えて、歴史学研究会、経済学史学会、経済理論学会、日本マスコミュニケーション学会、それぞれ正会員として、この間活動をしてられました。

先生の研究が展開された主要なフィールドは、大きくは4つに分かれます。「工業化と社会変動」「日本の石油産業史」「経済学経済事情」「メディアと社会」。この4つのフィールドで研究をなさってきたと思います。その中で重要なテーマとして「大衆社会論」「市民社会論」という社会認識の理論的枠組みについて「工業化と社会変動」のフィールドでは業績を積まれたと思います。「日本の石油産業史」の実証研究の分野は伊藤先生の中心的な柱になっていたと思いますが、「戦前、戦中、戦後の日本の石油産業史」を実証的に解明する作業を多くの論文を通じて発表してられました。「経済学経済事情」では新潟大学におられた時、新潟県の5つの市の歴史をまとめあげる中心的な役割を果たしてられました。大部な書物でして「地域経済史」としても重要なものだと思います。「メディアと社会」分野の業績では、スメルサーという研究者の『グローバル化時代の社会学』の翻訳を監訳者として指導されてきました。以上が研究分野での伊藤先生の活動の中心部分ではないかと思います。その内容が全体として最終講義に集約されるはずであり、興味深く拝聴したいと思います。

* 立命館大学産業社会学部教授